

一九九四年出土の木簡

概要

本号では昨年の研究集会で「一九九四年全国出土の木簡」として報告されたものを中心に、五〇遺跡から出土の木簡情報を掲載することができた。発掘調査、遺物整理など多忙にもかかわらず、原稿をお寄せいただいた関係機関の方々にお礼を申し上げます。

掲載した木簡出土遺跡は一覧のとおりである。いくつかについてその概要を紹介する。

古代の都城遺跡からは本年も多くの木簡の出土が報告されている。まず、藤原京では「頓首」の語をふくむ書状風の文書木簡が目目される。文意をとるのはむずかしいが、表記法などさまざまな課題をもたらすであろう。平城京では、東一坊大路西側溝から多数の木簡が、祭祀遺物、生産関連遺物、動物の骨など特色のある遺物とともに出土している。琴形に墨書したもののほか、貢進物の付札、衛府関係の文書木簡、工人に関わる木簡などがある。これらは付近で廃棄されたのか、あるいは上流から流れてきたのか明瞭ではないよう

であるが、共伴遺物などとも、どのように関連するのか興味深い。また、「中大伴門」も注目される。

長岡京では「利田」の語を持つ帳簿様の木簡が出土している。利田の意味についてはさまざまな見解があるが、従来より三〇〇年もさかのぼる初見史料となる。平安京では西市周辺の宅地から、米の購入、進上の木簡などが出土している。遺構の点でも宅地の開発状況が明らかとなっており、市を中心とする交易空間のありさまや、そこでの活動を検討するうえで貴重な史料である。また、左京四条一坊から「朱雀院」と記された木簡が出土している。

都城遺跡のなかで最も注目すべきものが宮町遺跡である。ここからは「皇后宮職」「造大殿所」「御炊殿」などの、意味深い語を持つ木簡をはじめ、参河・駿河・上総・越前国の貢進物の付札などが出土している。これら付札の出土は、東海・東山・北陸三道諸国の調庸を紫香樂宮に貢じたとする『続日本紀』の記事を裏付けするという遺構、遺物とあいまって、紫香樂宮の具体的な状況が徐々に明らかになってきている。

古代の地方官衙に関連する遺跡に目を転じてみると、まず注目さ

木簡出土遺跡一覧

遺 跡 名	所 在 地	点 数	木簡の年代	遺跡の性格
平城宮跡	奈良県奈良市	18	古 代	都 城
平城京跡左京三条一坊十二坪	奈良県奈良市	2	古 代	都 城
平城京跡	奈良県奈良市	20	古 代	都 城
平城京跡左京七条一坊十六坪	奈良県奈良市	857	古 代	都 城
○東大寺	奈良県奈良市	3	古 代	寺 院
○奈良女子大学構内遺跡	奈良県奈良市	2	中世・近世	都城・都市
※○高安城関連遺跡	奈良県三郷町	1	中 世 か	集落・遺物 包含地
藤原宮跡	奈良県橿原市	390	古代・中世	都 城
○藤原京跡左京七条一坊東南坪	奈良県橿原市	24	古 代	都 城
藤原京跡左京十一坊三坊	奈良県橿原市	10	古 代	都 城
長岡京跡(1)	京都府向日市	166	古 代	都 城
長岡京跡(2)	京都府向日市	3	古 代	都 城
長岡京跡(3)	京都府長岡京市	3	古 代	都 城
○平安京跡左京四条一坊一町	京都府京都市	6	古 代	都 城
○平安京跡左京八条三坊十四町	京都府京都市	3	中 世	都 市
○平安京跡右京八条二坊二町	京都府京都市	60	古 代	都 城
※○慈照寺境内	京都府京都市	1	中 世	寺 院
※○客坊山遺跡群	大阪府東大阪市	1	中 世	泉 水
大坂城跡	大阪府大阪市	1	近 世	城 郭
袴狭遺跡	兵庫県出石町	14	古 代	官 衙・祭 祀・水田
見蔵岡遺跡	兵庫県竹野町	4	中 世	屋 敷
※○有年原・田中遺跡	兵庫県赤穂市	1	中 世	集 落
※ 梶子北遺跡	静岡県浜松市	8	古 代	官 衙
※ 曲金北遺跡	静岡県静岡市	3	古 代	道路・水田
※ 伊興遺跡	東京都足立区	4	古 代	集 落
※○錦糸町駅北口遺跡	東京都墨田区	約50	近 世	武家屋敷
○宮町遺跡	滋賀県信楽町	約150	古 代	都 城
※ 前橋城遺跡	群馬県前橋市	2	近 世	城 郭
○荒田目条里遺跡	福島県いわき市	33	古 代	河川・祭祀
※ 矢玉遺跡	福島県会津若松市	4	古 代	集 落
山王遺跡	宮城県多賀城市	3	古 代	集 落
※ 大坪遺跡	山形県遊佐町	1	古 代	集 落
○中尊寺境内金剛院	岩手県平泉町	19	中 世	寺 院
※○花立Ⅱ遺跡	岩手県平泉町	2	中 世	集 落
※○志羅山遺跡	岩手県平泉町	2	中 世	集 落
福井城跡	福井県福井市	10	中世・近世	城 郭
※ 大友西遺跡	石川県金沢市	1	古 代	集落・荘園 か
※ 石名田木舟遺跡(1)	富山県福岡町	28	中 世	城 下 町

1994年出土の木簡

※ 石名田木舟遺跡(2)	富山県福岡町・小矢部市	2	中	世	集落・寺院
北高木遺跡	富山県大島町	9	古	代	集落・祭祀
※○水橋荒町遺跡	富山県富山市	1	中世・近世		集落・官衙
※ 山木戸遺跡	新潟県新潟市	1	中	世	集落
※○上郷遺跡	新潟県横越村	2			集落
※ 陰田小犬田遺跡	鳥取県米子市	1			水田・自然
					流路
※ 米子城跡七遺跡	鳥取県米子市	4	近	世	城下町
※ 三田谷Ⅰ遺跡	島根県出雲市	1	古	代	集落
※ 吉川元春館跡	広島県千代田町	8	中	世	居館
○田村遺跡群	高知県南国市	4	近	世	環濠屋敷
※○姉川城跡	佐賀県神埼町	1	中	世	城館
※○中園遺跡Ⅲ区	佐賀県神埼町	2	古	代	集落

※は木簡新出土遺跡 ○は1993年以前出土遺跡

れるのが、荒田目条里遺跡である。ここでは九、一〇世紀の河川跡から官衙色の濃い木簡が出土している。二点の郡符木簡のうち、一点は津の長に対して、人の召喚を命じたものである。もう一点は郡司の職田に関して農民を召喚したものである。三六人の農民の名が列記され、「不」の出欠確認の追筆がある。木簡に記されていることからみて、野外（職田の現地であろうか）で、出欠が確認されたのかもしれない。職田の経営に関わる貴重な史料といえる。公廩米の返抄もある。国郡司の経済的な実態に迫るいとぐちとなろう。

また、袴狭遺跡からは「獨符」と記す木簡や、画指の木簡が出土している。画指の木簡は四〇cm近い大型のもので、「己口分」の語が見える。長屋王家木簡の奴婢の画指木簡とは異なり、正倉院文書に残る契約文書の署名に付された画指に近いであろうか。北高木遺跡では神名を記す習書木簡や、「交易」「本利」の記載を持つ帳簿状の木簡などが出土している。また、この遺跡では「佐見御庄」という墨書をもつ土器が出土している。西大寺領佐味荘との関連が今後、問題となるであろう。梶子北遺跡では、「調衙」と記された木簡が出土している。これらの木簡は、地方官衙関係のものが常にそうであるように、いままでまったく不明であった世界を、断片的ながらリアルに見せてくれる。

古代末から中世の木簡では、平泉の三遺跡から木簡が出土している。このうち、中尊寺金剛院では将棋の駒が、志羅山遺跡では物忌

札が出土している。これらは平泉の生活の一部を確実に明らかにしている。

中近世の城郭跡や城下町からの出土例も多い。従来から報告のある大坂城跡をはじめ、前橋城遺跡、福井城跡、米子城跡、吉川元春館跡、姉川城遺跡、旗本の屋敷である錦糸町駅北口遺跡からの報告を掲載することができた。荷札をはじめ聞香札、柿経、はえたたき（？）など生活に密着した物が出土している。中近世に限らず、こういった日常生活に密着した余りにも身近な木簡は容易にそれと判断できるが、それらをどのようなかたちで扱い、何を語らせるかは、いまだ明らかな答は与えられていない。

以上、本号掲載の木簡を概観した。言及しなかったなかに重要な木簡もあり、また、それぞれの報告内容を誤解している点もあるかもしれない。ご寛恕をお願いしたい。

なお、本会では木簡出土年の研究集会で出土情報を報告し、これを翌年の本誌に掲載するのを原則としている。しかし、さまざまな事情によりそれに反することもある。佐賀県姉川城跡は八九年の出土であるが、今回、関係機関や担当の方々のご協力により掲載することができた。奈良女子大学構内遺跡、平安京跡左京四条一坊一町、富山県北高木遺跡、福島県荒田目条里遺跡は一昨年の研究集会で報告された遺跡であるが、本号で掲載することができた。あわせて関係機関および担当の方々にお礼を申し上げる。一方、本号に掲載す

べくして掲載できなかった遺跡として、滋賀県大將軍遺跡、長野県榎田遺跡、新潟県牧目遺跡・平林城跡、広島県山崎遺跡がある。また、以前に木簡が出土しているながら、未掲載の遺跡としては、奈良県西橋遺跡、平安京跡左京九条二坊十五町、御土居濠跡、京都府高内親谷窯跡、兵庫県赤穂城本丸跡、神奈川県佐助ヶ谷遺跡、新潟県春日山城跡、同伝至徳寺跡、石川県横江荘家跡、宮城県山王遺跡（多賀城市埋蔵文化財調査センター調査分）、山形県月記遺跡、広島県尾道遺跡などがある。本会ではこれらについてもできるだけ早い機会に補足していきたいと考えており、関係機関や担当の方々のなおいっそうのご協力をお願いする次第である。また、本会で掌握できていない出土例もあるかと思われる。関係機関、読者諸氏のご教示をお願いしたい。

（鷲森浩幸）